

## Q&A よくある質問について

このQ&Aは、一般的によく聞かれる質問をまとめたものです。アルバイト先や課外活動を行う際の基準としてください。

### ■手洗いの頻度は、どのくらいすれば良いか？

外から教室に入る、トイレの後、昼食の前後にこまめに手を洗うことが重要です。手を拭くタオルやハンカチなどは、個人持ちとして、共用はしないこと。また、手洗い後のハンドドライヤー使用は控えること。

### ■発熱等の風邪症状を、登校前に確認できなかった時の対応をどのように行うか？

発熱等の風邪症状がみられる場合には、保護者に連絡して、自宅で休養してください。

### ■学校で学生等の発熱を確認した場合には、どうすればよいか。

学生等を安全に帰宅させ、症状がなくなるまでは自宅で休養してください（本学院では「公欠」とします。）。また、次の症状がある場合は、「帰国者・接触者相談センターに相談」に相談をしてください。

- (1) 風邪の症状や37.5℃以上の発熱が4日以上続いている（解熱剤を飲み続けている場合を含みます）
- (2) 強いだるさ（倦怠感）や息苦しさ（呼吸困難）がある（基礎疾患等のある学生等は、この状態が2日程度続く場合）

その後、もし感染が確認された場合には、保健所が濃厚接触者の特定等、必要な調査を行うこととなりますので、これにご協力ください。（なお、本学院の学生等の中に濃厚接触者が特定された場合には、感染者と最後に濃厚接触をした日から起算して2週間の「公欠」の措置とします。）

### ■学生等や教職員が感染した場合はどうなるのか。

検査の結果、感染が判明した場合には、医療機関から本人（や保護者）に診断結果が伝えられるとともに、医療機関から保健所にも届出がなされます。学校には、通常、本人（や保護者）から、感染が判明した旨の連絡がされることとなります。感染者本人への行動履歴等のヒアリングは、保健所が行うこととなります。また、保健所が学校において、感染者の行動履歴把握や濃厚接触者の特定等のための調査を行う場合には、学校や教育委員会においてもご協力ください。

### ■換気は、具体的にどのようにすればよいのか

休み時間毎に2方向のそれぞれ1つ以上の窓（対角線上の窓を開けると換気がスムーズに行われます）を広く開けて換気を行うようにします。また、換気の程度は天気や教室の位置によって異なり、授業中も2方向のそれぞれ1つ以上の窓を開けておくことが望ましいと考えます。授業中は必ずしも窓を広く開ける必要はありませんが、換気の程度は天気や教室の位置によって異なるため、必要に応じて適時対応してください。なお、換気をすれば十分な感染予防ができるということではないため、あわせて、手洗いや咳エチケットなどの基本的な感染症対策の徹底にご留意ください。

### ■窓のない部屋ではどうしたらよいか。

窓のない部屋は十分に換気をすることが難しいことがあるため、常時入り口を開けておいたり換気扇を用いたりするなどして十分に換気に努め、また、使用時は、人の密度が高くないように配慮してください。

### ■どのような場面でマスクをすればよいか。

基本的な考え方として、飛沫のかからないような十分な距離（多くの学生等が手の届く距離に集まらない状態）があり、かつ、換気を適切に行っている室内や屋外である場合には、マスクの着用は必ずしも必要ではありません。

（教室での授業）

教室において、学生等の間に十分な座席の距離が取りにくく、近距離での会話や発声が必要な場合には、適切に換気を実施した上で、マスクを着用してください。ただし、例えば、少人数であるなど、ある程度座席を離して配置することができる場合は、マスクの着用は必ずしも必要ではありません。

（登下校時）

学生同士で徒歩登校する場合、向かい合わせにならず、十分な距離を保っていれば、マスクの着用は必ずしも必要ではありません。公共交通機関を利用する場合は、マスクを着用し、感染のリスクを抑えてください。